



8月に開催された岩川八幡神社灯籠祭り点灯式の様子

今回は、大隅町の有限会社浜田文宝堂3代目店主の奥さんで、岩川八幡神社の灯籠祭りを22年ぶりに復活させた濱田郁恵さんに話を伺ってきました。

「弥五郎どん祭りに携わる人たちの存在を以前は知りませんでした。祭りの日は店番に徹しているのですが、弥五郎どんが店の前を通るところしか見たことないんです」

2年前にテレビで弥五郎どん祭りの特集番組を見て、祭りに携わる多くの人々の存在を知った濱田さん。それから弥五郎どんに興味を持ったそう。

「弥五郎どんのことを調べてみよう」と思い『やご活』が始まりました」

まずチラシ・商品ラベル・看板に使われている、弥五郎どんの顔を撮影してスクラップ。第一弾・第二弾あわせて33点集めました。

また『岩川の弥五郎どん調査報告書』221ページからの新聞記事を読むと、弥五郎どんを中心に、以前は岩川八幡神社周辺も多くの商店でにぎわっていたことも分かりました。さらに地元通りの総会で、地域活性化や六月灯復活について熱く語る地元の方々を見て、「街の明かりを灯す一歩を踏み出した」と強く思い、六月灯の復活に向けて自ら動きました。



「やご活」第一弾で集めた弥五郎どん

「実行委員会を立ち上げるために、地域を一軒一軒まわると『私も地元のために何かした方がいいと思っただ』と賛同してくれました」

住民有志や地元通りの会のメンバーで実行委員会を立ち上げ、にぎわう六月灯のハードルを下げて「灯籠祭りという形でやりましょう」と意見がまとまり、準備が始まりました。

「実行委員長として意見をまとめたり役割分担に苦労しましたが、みんなの協力があり灯籠を飾ることができました」

灯籠祭りは3日間の開催予定でしたがその後3日間延長しました。6日間で500名が来場し、灯籠を見たお客さんは昔の風景を懐かしみました。たくさんの方に喜んでもらえたので来年も灯籠祭りを行う方向で話が進んでいます。

「今後は子ども達との繋がりを通して、この街の誇る文化を楽しみながら、伝えていけたらいいなと思います」と話してくれました。

# 第93回 実は隣のスゴイ人



有限会社 浜田文宝堂  
濱田 郁恵さん

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらおうこのコーナー。前回のスゴイ人、江藤裕一さんにご紹介いただいたこの方は「地域を盛り上げる前向きな姿勢のスゴイ人」とのこと。



曾於高校2年生 清水太朗さん作  
大灯籠の絵に使われた原画を灯籠祭り実行委員会へ寄贈



岩川小学校の購買部「みんなの店」で文房具を販売